



江別市立豊幌小学校 学校だより

令和3年度 号外
全国学力・学習状況調査 結果
発行：令和3年9月28日

令和3年5月27日(木)、全国の小学校6年生、中学校3年生を対象に全国学力・学習状況調査が行われました。本校児童の分析、結果がまとまりましたので、お知らせします。

なお本調査結果は、現段階における実態の一側面であるということをご理解いただきますようお願い申し上げます。

学力調査

1. 結果概要

全国平均正答率との比較から見た本校の結果

国語	全国平均と同様
算数	全国平均とほぼ同様（下位） 若干下回りましたが、ほぼ全国平均並みです

2. 教科ごとの傾向

(ア) 国語 領域ごとの結果

学習指導要領の内容	全国平均正答率との比較
知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	ほぼ同様（下位）
思考力、判断力、表現力等 A 話すこと ・ 聞くこと	相当高い
B 書くこと	同様
C 読むこと	低い

(イ) 算数 領域ごとの結果

学習指導要領の内容	全国平均正答率との比較
数と計算	高い
図形	ほぼ同様（下位）
測定	ほぼ同様（下位）
変化と関係	ほぼ同様（上位）
データの活用	低い



3. 各教科の傾向と指導改善のポイント

(ア) 国語

- ① 全国と比較して**正答率が高かった問題** 問題番号 1 二

資料を用いた目的を理解することができるかどうかをみる問題です。

(正答) 4

- ② 全国と比較して**正答率が高かった問題** 問題番号 2 二

思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるかどうかをみる問題です。

(正答) 4

- ③ 全国と比較して**正答率が低かった問題** 問題番号 3 一

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうかをみる問題です。

(正答例)

面ファスナーはしっかりとくっつきかん単にはがせることから、物がうかぶ国際うちゅうステーションの中で、身の回りの全ての物の固定に使われている。(70 字)

- ④ 全国と比較して**正答率が低かった問題** 問題番号 3 三(2)オ

文の中における修飾と被修飾との関係を捉えることができるかどうかをみる問題です。

(正答) 3

■本校の指導改善のポイント■

- **文の中における主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係を捉える指導の充実**

①作文指導を行う際は、主述や修飾・被修飾との関係に気を付けて文を整えること、②主述や修飾・被修飾との関係の練習問題に取り組むこと、③自分が書いた文章を読み返すこと（読み手の立場に立って、言葉の使い方を確認すること）、⑤他の児童の文章を吟味しながら読ませることを意識しながら指導を行います。

- **目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する指導の充実**

要約する目的を意識して、文章全体から内容の中心となる語や文を選び、要約の分量などを考えて要約することができるよう過去のチャレンジテストの活用も図りながら指導します。低学年においては、キーワードに注目させるなど学年の発達段階にあわせて要約する力を身に付けさせます。

そのほか、今年度の全国学力・学習状況調査の報告書では、次の3点についても指導充実の必要性をあげています。

- 資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫する指導の充実
- 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実
- 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付ける指導の充実

(イ) 算数

- ① 全国と比較して**正答率が高かった問題** 問題番号2(2)

複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができるかどうかをみる問題です。

(正答) 3

- ② 全国と比較して**正答率が高かった問題** 問題番号4(3)

小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題です。

(正答例)

30mを1としたとき、0.1にあたる長さは3mです。

12mは、3mの4つ分になるので、30mを1としたときの0.4にあたります。

- ③ 全国と比較して**正答率が低かった問題** 問題番号1(4)

条件に合う時刻を求めることができるかどうかをみる問題です。

(正答) (午後) 2 (時) 25 (分)

- ④ 全国と比較して**正答率が低かった問題** 問題番号3(2)

棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかをみる問題です。

(正答) ウ

■本校の指導改善のポイント■

- **条件に合う時刻を求めることができるようにする指導の充実**

①もととなる時刻より前の時刻なのか、後の時刻なのかを適切に判断すること、②0(12)をまたいだときは、繰り上がったたり、繰り下がったりすることを理解できるようにするなど、前学年までの既習事項を再度確認し、確実に定着するよう指導を充実させます。

- **棒グラフから、項目間の関係や集団のもつ全体的な特徴などを読み取ることができるようにする指導の充実**

過去のチャレンジテストなども活用しながら①前学年までの既習事項であるグラフの読み取り方(最大値、最小値、増加、減少など)を再確認すること、②身の回りの事象について、データに基づいて判断する統計的な問題解決の方法を知り、その方法で考察していくことの指導を充実させます。

- 年間を通して取り扱う「数と計算」の定着度は高く、逆に授業で取り扱う時間の少ない単元では、忘れてしまいがちであることが結果から読み取れました。このことをふまえ、朝学習・家庭学習・授業開始時等、短時間で日常的に取り組めるよう、プリントを用意し、振り返りの機会を定期的に設けて繰り返し取り組ませていきます。

- 習熟度別少人数指導の中で「算数的活動」や「説明活動」を多く取り入れます。また「話すこと」に加え「他者にわかるように書く」活動に日常的に取り組ませ、表現する力、記述する力をより高めていきます。

(ア) 全国平均を上回っている特徴的なもの

1. 朝食を毎日食べている子の割合が多い。
2. 家で自分で計画を立てて学習している子の割合が多い。
3. 学習塾、家庭教師など学校外で学んでいない子の割合が多い。
4. 5年生までに受けた授業でコンピュータなどのICT機器の使用頻度が多い。
5. 学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために利用している子の割合が多い。
6. 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている子の割合が多い。
7. 人が困っているときは、進んで助ける子の割合が多い。
8. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと全員の子が考えることができる。
9. 人の役に立つ人間になりたいと考えている子の割合が多い。
10. 友達と協力するのは楽しいと考える子の割合が多い。
11. 今住んでいる地域の行事に参加している子の割合が多い。
12. 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている子の割合が多い。
13. 自分の学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると考えている子の割合が多い。
14. 国語は、好きであると感じている子の割合が多い。

(イ) 全国平均を下回っている特徴的なもの

15. 自分には、よいところがあると思う子の割合が少ない。
16. 将来の夢や目標を持っている子が少ない。
17. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、一日当たり30分以上読書をする子の割合が少ない。
18. 普段（月曜日から金曜日）、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を勉強に使っている子の割合が少ない。
19. 算数は、好きであると感じている子の割合が少ない。

■本校の改善のポイント■

- 上記3から全国と比較して学習塾、家庭教師など学校外での学習時間が少ないことがわかりました。学校での習熟、家庭学習の重要性が非常に高いと考えられます。全校で家庭学習の計画表に取り組んでいることで、計画的な学習習慣が身につけてきているので、この取り組みを継続していきます。

さらに江陽中学校区（江陽中、江別太小、本校）に属する1校として、家庭学習強調週間の取り組みを進めていきます。江陽中学校のテスト期間と本校の家庭学習強調週間の時期を合わせることで、兄弟姉妹が小と中にそれぞれいても家庭で一体となって取り組むことができるよう環境を整えます。

- 上記17から学校以外での読書時間が短い傾向が見られます。本校は、江別市情報図書館の別館が併設されており、週2回の図書館司書によるサポート、蔵書数の充実など豊かな読書環境が提供できております。週1回の読書の日（ゆたかタイム）を活用し、本をじっくり読む時間、図書室へ足を向ける時間を確保し、読書に親しむことができるようにしていきます。各家庭においてもぜひ読書の時間を確保していただきたいと考えます。学校、家庭での読書時間を確保することにより長文に対する抵抗感を減らすことにもつながると考えます。ご家庭での読書時間確保をぜひお願いします。
- 上記15のとおり、自己肯定感が低いことがわかりますが、「困っている人を進んで助ける」「友達と協力するのは楽しい」などの項目では全国を上回っており、友達にやさしく、互いに良いところを認め合う風土も育っています。子どもたちの良さ、がんばりを認める場面を多く作るとともに学校生活の中で失敗を恐れず挑戦し、達成感を感じる場面を多く経験させられるようにしていきます。